

神田小の誇りは「明るい笑顔」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



# 学校だより

No. 6 さいたま市立神田小学校

平成29年 9月29日発行 TEL (853) 4377  
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

## 学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を  
たくましく生きる神田の子  
・かしこく・たくましく・あたたかく

9月22日に挙行いたしました「創立40周年記念式典」では、御多忙にもかかわらず、多くの地域の皆様に御臨席いただき、誠にありがとうございました。

当日は、9代校長海野衛先生をはじめ、本校を10年前に卒業した3名の先輩方を迎え、創立30周年の時に封印したタイムカプセルの開封式も行いました。式典に出席した5・6年生の子どもたちは、卒業生の姿を自分の10年後の姿を見るように、きらきらとした瞳で見つめていました。

神田小学校がここまで発展しましたのも、歴代の校長先生をはじめとする教職員の方々、そして何よりも子どもたちのために御尽力いただきました保護者や地域の皆様の御支援、御協力の賜物と心より感謝申し上げます。どうぞ、今後とも御指導、御鞭撻をお願いいたします。

## 「本を読む」

校長 内野 多美子

私は、小学校高学年のころ「名探偵シャーロック・ホームズ」などの推理小説を読むことが大好きでした。朝、学校に登校するとすぐ、また、業間休み、昼休み、放課後も学校の図書室に行き、ずっと読んでいたのを覚えています。そして、私は家に帰ると母に読んで推理小説の内容を話しました。「今回の事件は、こんなふうにおきて、ここが謎なんだ。」

「今回は、ホームズが事件をこんなふうに解決した。」などと、毎日、ホームズが事件を解決する様子を詳しく話したのです。小説の様々な事件の内容を事細かに話す私を、当時、母は、心配したのでしょうか。ある日、母は、私に一冊の本を買ってくれました。それは「怪談」（小泉八雲著）という本でした。読んでみると・・・その内容の恐ろしいこと。「雪女」「ろくろ首」など皆さんもよく知っている話が多いと思います。推理小説とは違う、その恐ろしさ。それを巧みに描く小泉八雲という作家に、強い興味を持ったことを覚えています。そして、その本を選び与えてくれた母の発想に今更ながら驚かされます。

よく「本は、心の栄養素」と言われます。今年6月21日には緑陰読書会が開かれ、子どもたちは、素晴らしい本と出会い、豊かな感想をもちました。さいたま市よい本を読む運動推進委員会の皆様には、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。10月23日からは「神田小学校 秋の読書週間」が始まります。お気に入りの本はもちろんですが、普段は手にしないジャンルの本を読むことも、自分の世界が広がり、更に心が豊かになるのではないかと思います。秋の夜長、ぜひ御家族で本に親しむ機会を作ってみてはいかがでしょうか。



<タイムカプセル開封式>